

第4回 武蔵野市男女共同参画推進市民会議（第3期）会議録

日 時	平成23年12月19日（月） 午後7時～9時
場 所	商工会館 第3、4会議室
出席者 （敬称略）	委 員・・・沖島徹哉、千田有紀（副委員長）、高田素子（委員長）、野田順子、 二子石薫 市担当・・・防災安全部長 事務局・・・市民協働推進課男女共同参画担当職員 傍聴者・・・2名
議 題	1 男女共同参画の視点からみた防災対策とまちづくりの課題 ～防災安全部長との意見交換、及び担当委員からの報告等 2 今後の予定について 3 その他
議事要旨	<p>1 男女共同参画の視点からみた防災対策とまちづくりの課題について</p> <p><防災安全部長></p> <p>■ 資料を基に、市の防災対策について説明</p> <p><各委員></p> <p>■ 震災当日は、帰宅困難になりかけた。</p> <p>■ 子供が保育園に入っているが、保育園と連絡がとれなくなり、電話が繋がったのは夜8時ぐらいだった。ツイッターとネットが使えたのがよかった。</p> <p>■ 武蔵野市ならではの課題などは見えてきたのか。</p> <p><防災安全部長></p> <p>■ ターミナル駅を抱えているところはどこもそうだろうが、帰宅困難者の対応と、公共交通機関の停止は課題だ。4万9000人の市民の避難者用の食料・生理用品・粉ミルクなどは用意しているが、帰宅困難者用の備蓄品はなかった。</p> <p><各委員></p> <p>■ 避難所は学校施設が主力というのが現状だと思うが、共助の面では自主防災組織の役割が大きな力となるだろう。今後、防災計画に改善案、課題として提出されるのか。</p> <p><笹井防災安全部長></p> <p>■ 避難所運営組織をつくるのが一つの課題となっている。武蔵野市には親睦的な町内会はいくつかあるが、自治会・町内会がない。これはマッカーサー政</p>

令で戦時組織に近い隣組などが解散して以来、再建されなかったからだ。

今は住所に関係なく、どこの避難所に行ってもいいことになっているが、それだと避難所運営組織の地域ガバナンスが生じない。あまり、閉鎖的にしたくないということもあるが、ある程度区割りをした上で、地域社協とかコミュニティ協議会の役員を中心の運営組織をつくることを考えている。

<各委員>

- ペットが避難所に行くことについてだが、メンタルの面からは家族の一員のようにして飼っている方は、一緒にいることで心の安定や避難生活を安心して過ごせると思うが、嫌いな方もいる。人畜共通伝染病などもあるので、どうするのか問題だ。例えば、ペットはペットの居住区をつくり、人間は人間の居住区をつかって、ペットと飼い主が行き来できるようにするのが一番いいのではないか。

<担当委員>

■ 資料を基に説明

女性や子育てニーズを踏まえた被災者支援・防災における男女共同参画について

これから確実に直下型地震が首都圏を襲うといわれているなかで、起こったときにどうすればいいのか、具体的に想定しておくだけでかなり違うと思った。同時に、シングルの人や自立した大人として行動できる人と、弱者を抱えている人ではとても違うと実感した。お年寄り、病人、子供がいる場合は、一刻も早くケアをする人のところに帰ることが必要だということを考えなければならない。

女性や子育てニーズを踏まえた被災者支援

1) 避難所における物資

生理用品、おむつ、粉ミルクや哺乳瓶、離乳食などが必要。学校でもコンタクトレンズを備蓄したり、防災にコンシャスな学校ということで学生を集めたりしている。

2) 女性や子育てに配慮した避難所の設計

先日行った「災害復興と男女共同参画の6・11シンポジウム」という学術振興会で講演を聞き、避難所運営がとても難しいことを知った。プライバシーの問題は、集団生活を円滑にしなければいけないと思うと言出しにくいことがある。更衣室、授乳室、入浴施設などプライバシーを確保する場所が必要だ。

3) 女性のニーズ等を反映した避難所の運営体制

特に東日本大震災のときは、東北の女性は控えめで、あまり主張できないことが多く、女性の細々としたことなどは言いにくい雰囲気があるので、避難所の運営などに女性を入れて、女性リーダーが女性の意見を吸い上げて、コーディネートしてくれることを強く望んでいた。細かいことになるが、思春期の女の子は難しく、長期化してくると気持ちもすさんでくるので、ジェンダーセンシティブに

配慮してもらいたい。医療に関しても婦人病など、女性ならではの病気は相談しにくいニーズはすくい上げてほしい。地域の医療機関、助産機関、保健センター、保育・教育、男女共同参画センターなどと連携したり、女性医師や保健師の悩み相談とその周知をしてほしい。

4) 女性に対する暴力を防ぐための措置

語られないことは沢山あるようだ。暴行があったり、外にあるトイレに夜1人で行くのが怖くて、トイレに行く回数を減らために水を飲まずに健康を害すということも起こっている。

5) 妊婦などへの配慮

かなりの弱者になり、自分1人で迅速に動けない。妊婦さんだけではなくて、高齢者、障害者、外国人。他にも性同一性障害の子などは、バルネラブルというか、暴力を受けやすい立場にいる人は共同生活になったら辛いだろうと感じた。

阪神・淡路大震災のジェンダー問題について

1) 震災の死亡者

女性が圧倒的に多くて、特に高齢女性が多かった。一方で、女性の場合は経済的に裕福ではなくて、比較的安全な住居に住んでいないために死亡者が多かったと言っていた。

また、ニューオリンズでカタリーナ（ハリケーン）が来たときに、黒人がたくさん亡くなったのは、貧しいために車がなくて逃げられなかったこともある。

2) 固定的な性別役割分業

男の人は力仕事をして、女の人は炊き出しをしてほしいとか、細かなケアを求められることがある。被災すると自分自身も疲れているので、他者のケアをするというのは難しいと思った。

3) 雇用の不利益

災害があったとき10万人近い解雇があった。ほとんどが女性の非正規雇用者だった。日ごろから景気の安全弁になりやすい立場の女性は、真っ先に切られてしまう。

4) 復興や復旧の場で女性の働きが評価されない

女の人は家でお年寄りや子どもの面倒を見て、身動きがとれなかったりするが、そのこと自体は評価されず「何もしていなかった」と言われてしまうことがある。

5) 女性の暴力への被害に対応してくれない

避難して、極限状態で暮らしていると当然のように性暴力の問題はある。みんなが一致団結して復興に向かっているときに、性暴力の被害に遭ったと言いくいし、声を上げて和を乱すでっち上げだと受け取られることもあり、さらに追い込まれていくと指摘されていた。

武蔵野市ではどうするか

1) 防災会議

現在、防災会議の委員には女性が2人のみである。国の第3次男女共同参画基本計画では、3割が目標だと書いてある。女性たちの声を直接聞く場の定型・定例化など、具体的な仕組みをつくってほしい。地域活動をしているのは女性のほうが多いので、女性のニーズをすくい出していくことが必要。また、マイノリティーの配慮をしてほしい。

2) 避難所の運営

はじめから女性を入れることなど計画に組み込んでおく。福島県のピックパレットにおける女性専用のスペースの運営にかかわった郡山の婦人団体協議会の会長さんの話だが、着がえる場所として女性専用スペースを作ったり、子供の夜泣きは、みんながいらいらしている時なので更に辛くなるため、それなりの場所があるとありがたい。

また、女性は家族役割としてケアする側であることが多く、いつもケアしていると自分もケアされる時間が欲しくなる。男性もあっていいのかもしれないが、女性もほっとできるような場があると、ニーズをすくい出しやすいし、ケアにも役立ついい試みだと思った。

3) DV、性暴力や児童虐待などへの取り組み

日ごろの関係が悪いと厳しい状態になったとき、ドメスティック・バイオレンスや性暴力につながる。母親も子どもの夜泣きなどでいらいらして、子供の関係も距離がとれなくなることがあるので、意識的にケアしてほしい。

4) 復興における男女共同参画

日本より、もう少し発展途上の国かもしれないが、避難所の運営・デザインは女性に聞き、住居を新たに提供するときは夫婦の名前で、女性に対しても土地所有権を与える、女性の収入源となるような事業を実施してほしい、などをあげている。福島でもミサンガとかをつくり、収入を得たりしている。災害時に平等で充実した復興の計画を立てる際、ジェンダーの平等は必須である。

すべての女性が母親というわけではないし、男性と住んでいるわけでもなく、世帯主で最も脆弱な存在であるとも限らない。実際はどうなるかわからないだけに、いろいろなことを配慮してほしい。自分も学び、いざというときに備えたいと思う。

<委員長>

■・復興の中で男女の役割が固定して、しっかりしているところほど復興が早いという話をシンポジウムで聞いて、すごくショックだったが、表に出されていない情報も結構あるのではないかと思う。

・防災計画にも男女共同参画の視点をというのは、大きな課題としてあるのか。また、いつまでに計画を改定するのか。

< 笹井防災安全部長 >

■ 男女共同参画の視点での防災対策は課題であると認識している。来年度に見直しを予定している地域防災計画の改定の前に、現在、見直しに向けて「今後の防災対応指針」を作成中で、その中でも課題の一つとして取り上げる予定。

また、今、内閣府で東海・東南海・南海の3連動のシミュレーションをやっている。国は首都直下のシミュレーションを24年度予算でやる。そうすると被害想定が変わると災害対応や備蓄量なども変更せざるを得ないので、中央防災会議の説明だと毎年改定するようなことを言っているが、どうなるかわからない。

■ 立川断層の発生率については、国と東京都の発生確率予測が違う。また、津波の被害想定も違いがあるが、振り回されずに来年度1年間かけてきちっとしたものをつくりたいと思っている。

< 各委員 >

■ 今は全体の避難の話だったが、特に男女の違いや男女共同参画的な防災は、特にどういうところに一番視点を置いているかを伺いたい。

< 笹井防災安全部長 >

■ ・市では粉ミルク、哺乳瓶、生理用品などの備蓄品やプライバシー保護のための避難所でのプライベートルーム設置など女性や子育てニーズに対応した防災対策を進めている。

・たぶん内閣府が運営組織に女性の参画と強調しているのは、被災現地の状況からすると、自治会の会長さんが避難所運営組織の幹部というか運営委員会の中心になっているからではないか。武蔵野市は、避難所運営組織や地域活動そのものが女性中心に動いているので、避難所運営は東北地方ほど男性主導型にはならないと思う。

・被災現地へ職員を派遣したり、私自身も行ったが、避難所の仮設住宅へ行くと仕事や役割のない男性は孤独化して、アルコール依存症になっている方が多くいる。女性のほうがコミュニケーション能力が格段に高い。避難所は避難所なりのコミュニティが何カ月かで形成されて、仮設住宅に入った途端にコミュニティが分断されてしまうので、そのケアのほうが大変だ。

・武蔵野の仮設住宅は小分けの仮設でなくて、グループホーム型の仮設をつくったほうが良いと思っている。昼間は共同のリビングで顔を合わせ、食事や余暇活動をして、就寝時や1人になりたいときだけ部屋に戻るという個室ユニットケア方式の仮設住宅が望ましいと思っている。要援護者という意味では、男女ということではなく、乳幼児も子育て世代も、妊産婦、要介護者、高齢者も障害者も、フラットな運営をしていくほうが良いと考えている。

<各委員>

- 武蔵野市だけの権限ではできないのか。

<笹井防災安全部長>

- 応急仮設住宅は、建設の権限は都道府県、用地確保と管理は市町村が担うことになっている。

<各委員>

- プライバシーの問題として、あまり踏み込まない傾向にあるが、例えば妊産婦などをどのようにして把握するのか。
- 個人情報保護法がかなり妨げになったと言われたが、どうなのか。

<笹井防災安全部長>

- 妊産婦は健康課で把握している。避難所は避難所ごとに名簿をつくり避難者台帳を整備して、インターネットが機能していて本人の同意が取れば、誰がどこの避難所にいるかインターネットで公表しようと思っている。
- 武蔵野市の個人情報保護条例には、「個人の生命、健康、生活又は財産を守るため、緊急かつやむを得ないと認められるとき」はこの限りではないという規定がある。例えば、誰かがけがをして生命の危険があり輸血が必要だとする。この人の血液型がA型であることや名前、住所を知っていて、生命を救うためにこの個人情報を公開しても罰せられない。災害時については個人情報保護法は例外規定があるということだ。

<各委員>

- 武蔵野市の防災概要に、市民対応班だけでなく、男女共同参画班などをつくって、もっとはっきり男女共同参画のことを打ち出すなどはどうか。
- 女性被災者に対する相談窓口の設置及び周知について（資料を基に説明）
 1. インターネット、ホームページから
 - ①女性外来をやっている産婦人科、内科、精神科などの女医でつくっているシーネットが、東日本大震災のときにいろいろ地域に援助をした。NPO法人のウイメンズアクションネットワークのホームページは現在も新しい情報を随時追加中だ。
 - ②被災した女性のための情報提供と専門医による無料相談メールは、9月11日で役目を終え、終了した。
 - ③震災後の女性・子ども応援プロジェクトは、日ごろから女性・子供の支援をしているNPOなどが中心に活動していたが、10月31日でやはり終了している。
 2. パープル・ホットライン（全国女性シェルターネット）

女性のDV相談室を受けていて、東日本大震災があったので、4月10日から全国無料で特別なホットラインを引いた。DVや被害に遭った方を24時間体制で支援していこうということで、内閣府から委員長が出ている。

3. 内閣府男女共同参画局ホームページ

12月6日版の男女共同参画局の取り組みというのが載っているので、参考にしてほしい。

また、災害と女性情報ネットワークというのがあり、ウィメンズネット神戸とあって、阪神・淡路大震災の後に、震災を経験したことを糧にして中身をどんどん膨らませていったネットワークだ。ここでは、女性に対する暴力、妊婦への配慮、女性への暴力、DV、性暴力、児童虐待を取り上げる。

体については、先ほど言ったトイレを我慢して膀胱炎や膣炎が起きるとか、ナプキンにかぶれて外陰炎を起こして出血したとか、レイプの相談などが実際にあったようだ。妊娠中・出産後の女性は、早産や未熟児を産んだ方たちはなかなか対応が大変だ。それから育児支援がなくて育児ノイローゼになってしまうこと、避難所の食事によって妊産婦がお腹の子供の発育が心配になったりする。

女性に対する暴力では、やはり暴力被害が増加、レイプ被害を警察に訴えたら、言わないほうがいいと言われてたり。暗いところがよくないとか、だから防犯灯を設置してほしいとか。あと、子供の虐待は幼児虐待の相談が増加した。母子間が近くなってしまい、精神的ストレスから子供虐待などがあるようだ。あと、子供が外で遊べなくていらいらしたり。

それから、PTSDと心のケアだが、長期にわたるPTSDとかトラウマなどは、なかなか治らなくて年単位の治療が必要だ。だから、早目に対応してあげることと、もっと予防していかなければならない。

加害者の多くは累犯であったり、そういう性癖があることが多い。精神科的に治療することはとても難しい。そういう方たちをとにかくきちんと捕まえるということが大切。再犯者をどのようにしてチェックしていくか、人権の問題もあるので大変だが、例えば避難所などに犯罪者も紛れ込む可能性は十分にある。その辺をどうしていったらいいのかという問題もあると思う。

<防災安全部長>

■ 震災があった時に、避難所に行かなくても大丈夫な備えを皆さんにさせていただきたい。避難所中心の災害対策でなくて、自宅で可能な限り生活をしていただき、お年寄りなどで食事の支援が必要な人には、地域包括支援センターや避難所からアウトリーチで届けるとか、あるいは配食サービスのようにステーションを決めて、ボランティアさんや地域の人が安否確認を兼ねて配食をやっていくとか。自宅が安全であれば黄色いハンカチを出したり、援助を求めている人は何らかの意思表示を自宅にさせていただくなどして、そこに支援のアウトリーチをしていくか必要な食料や物資を避難所に取りに来てもらう等の仕組みづくりが、武蔵野らし

いやり方だと思う。

<委員長>

- ・だからこそ、緊急のときだけではなく、日ごろのまちづくりをするということと情報提供というのが大切だと思う。
- ・男女共同参画センターや民間団体など、どんな施設を活用しながら情報提供していくかというのが課題になってくると思う。

<防災安全部長>

- ・アウトリーチで支援をする場合の例については、遠野まごころネットというのをインターネットで調べていただきたい。遠野市の社会福祉協議会が中心になって、いろいろなNPOが1つのネットワークで事務所をつくっている。県外・市外からのボランティアの受け入れも、まごころネットがコーディネートして、ニーズとマッチングをしている。
- ・ほんとうに支援が必要な人は実は、家族関係や経済状況も結構複雑で、1つのことを解決すれば終わるということではない場合が多い。そこは複合的、多角的支援が必要なので、複合的な活動をやっているところが1つに集まって対応したほうが、望ましいと思っている。

<委員長>

- これをきっかけに、武蔵野市の防災計画の中に女性の視点、男女共同参画の視点を取り入れられ、大きな実りがあることを祈りながら、またご助言などをお願いしたい。

今回は1月30日で、メディアリテラシーと条例など武蔵野市の男女共同参画の体制の問題について担当委員からの説明と意見交換をおこなう。

次 回

- ・平成24年1月30日（月）19：00～
- ・武蔵野商工会館 第1会議室
- ・1 基本目標Ⅲ・基本施策3「確かな目を養うメディア・リテラシーの向上」
- ・2 基本目標Ⅳ・基本施策5「男女共同参画基本条例(仮称)の検討」から